

みやぎ地域復興支援助成事業「コミュニティで変わる新しい山元創生事業」

やまもと対話・学びの場づくり@ポラリス（第2回） 「子どもたちの変化から辿る震災からの日々」

講師：一般社団法人 まなびの森
代表理事 坂本一さん



日時：2015 年 9 月 12 日（土）10:00～12:00

場所：ポラリス

定員：30 名

※おいしいコーヒーとお菓子を 500 円で販売します。

NP0 法人ポラリスでは、対話・学びの場を創ることで、人々の意識に働きかけ、町の文化や人々の生き方の質を変革し、受け身ではない主体的な行動を促し、誰もが心豊かにいきいきと生きていける「新しい山元」の創生を目指しています。また、そうした場で地域課題の担い手育成にも取り組んでいます。



主催 特定非営利活動法人ポラリス

山元町高瀬字合戦原 72 番地 64

TEL : 0223-36-7410

(団体紹介)

一般社団法人まなびの森

所在地

宮城県角田市角田字扇町5-3

設立

平成 23 年 12 月 16 日

あゆみ

宮城県角田市で 20 年間小中高生を対象とした学習塾を運営。

東日本大震災の直後に新しい教室を立ち上げ、同時に地震と津波で被災した山元町を中心に、学習支援活動を開始。

2011 年 12 月に一般社団法人として法人化、同時に文部科学省による緊急スクールカウンセラー等派遣事業を受託。

2014 年 9 月の時点で、次の事業を実施中。

【学習支援事業】

- ・仮設住宅集会所で実施する小中学生対象の学習支援「移動教室」
3ヶ所(旧坂元中跡、浅生原東田、浅生原内手)
- ・中学校の教室で実施する放課後の学習支援 3ヶ所(山下中、坂元中、角田中)
- ・不登校、別室登校の中学生を対象とした学習室運営 1ヶ所(角田中)
- ・中学3年生を対象とした校外模試の受験料補助(山下中、坂元中)

【自主事業】

- ・小中高生対象の学習塾事業×2ヶ所(角田教室・大河原教室)

従業員数

常勤スタッフ7名 学生アルバイト20名

主な活動

被災地域の小中学生を対象とした学習支援活動

小中高生を対象とした学習塾の運営

拠点

角田教室 角田市角田字扇町5-3 電話 0224-63-5238(角田警察署裏)

大河原教室 大河原町字幸町19-9 電話 0224-87-6026(JR 大河原駅東口)

子どもたちの変化からたどる 震災からの日々

一般社団法人まなびの森



2015.09.12 特定非営利活動法人ポラリスにて

発表のアウトライン

1. まなびの森とは何者か

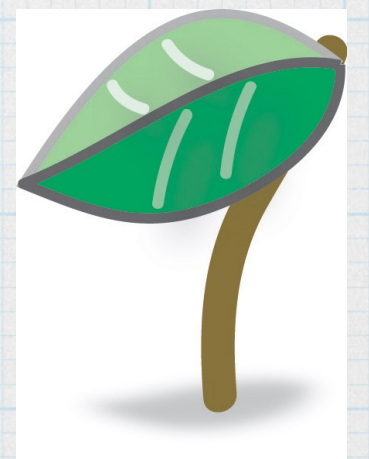
2. 学習支援活動の全体像

子どもたちみんなに届く支援

3. 子どもたちの変化と現状

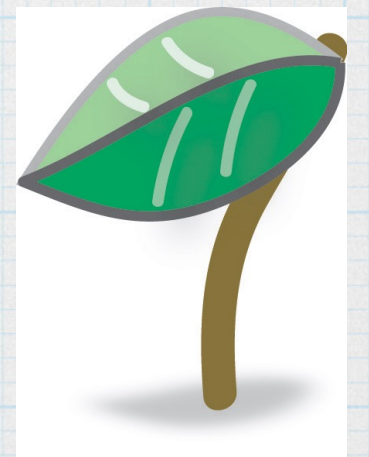
4. これから目指すところ

山元まなびの森構想



まなびの森とは①

1. 角田の学習塾が母体になった団体
2. 30人の高校受験生と10人の大学受験生を送り出す×25年続けてきた
3. 塾の教え子だった若者2人と、新しい教室の立ち上げを準備していた時に被災
4. 行き場のない子どもたちの居場所を作り、学校が再開されるまで継続
5. 2011年6月に山元町で学習支援を開始



まなびの森とは②

1. 組織の特徴

- * 常勤スタッフ8名 学生20名
- * 人材の地産&地消
 - * スタッフのほとんどはまなびの森出身
 - * 塾生→アルバイト→紆余曲折→常勤スタッフ
- * 現場の基幹業務は20代の若者が担っている

2. 塾としての特徴

- * 小中高生を対象とした「滞在型」学習塾＝長期間の利用
- * 低料金&定額制＝毎日来ても月謝は一定額＝勉強部屋

まなびの森とは③

1. 運営上の特徴

- * 非営利の学習塾 塾が非営利で何が悪い！
- * 原動機付自転車操業
 - * 収益事業で得た経営資源を支援活動に投入
 - * 人が経営資源

2. 将来の展望

- * 屋号（団体名）が目指すところ＝人の森を作る
 - 地域に必要な担い手は、地域が自ら育て上げる
 - 大切に育て上げれば、若者は地域に帰還する

まなびの森とは④

1. 現在実施中の事業

1. 学習支援活動

1. 移動教室事業 山下地区と坂元地区を週2回ずつ巡回
 1. 100名弱が参加登録 8割弱が仮設住宅から退去済み
 2. 毎回約40名が参加 年間40週実施
 3. $40\text{名} \times 40\text{週} \times \text{週}4\text{回} \times 4\text{年間} = \text{のべ}25600\text{名}$
2. 放課後の学習支援 山下中、坂元中 ほぼ毎日
3. 長期休業中の講習会 山下中、坂元中 夏休み・冬休み
4. 中学校の授業補助 山下中に3名、角田中に2名が常駐
5. 外部模試（新みやぎ模試）の受験料補助 80名が利用中

2. 自主事業＝学習塾事業

1. 角田教室、大河原教室で160名の小中高生が利用中
2. 新みやぎ模試の一般受験会場運営（毎月150名が受験）

校長先生の指摘

2011年6月中学校にご挨拶に行った
体育館の避難所が解消し、ようやく学校教育
が正常化に向かって歩み始める時期だった。

「仮設に住んでいる子どもたちだけが被災した
のではない。地域全体が被災したのだ！」

「特定の子どもを対象にした支援はいらない。
生徒全員に届く支援は大歓迎だ！」

「笑顔を取り戻す時期が過ぎたら、落ち着いた
生活を取り戻す時期がやってくる。そのた
めの支援が必要だ！」



子どもたちみんなに届く支援

2011年にやったこと

公民館で高校受験の勉強会（夜）

中学校の教室で無償の冬期講習

模擬テストの割引実施（日曜日）

－ 震災後2年間は無償で実施 －

できる限り固定化したメンバーで

学校の先生方と協働して、

子どもたちを見守り、励まし、支える体制作り
が始まった。



子どもたちみんなに届く支援②

2つの中学校に5名のスタッフが常駐

角田中学校（2014年4月～）

山下中学校（2015年5月～）

- ・授業の補助＝先生の助手
- ・不登校生の登校支援＆学習支援
- ・特別支援学級の生徒の随行支援

学校内 日中＆放課後＆長期休業中

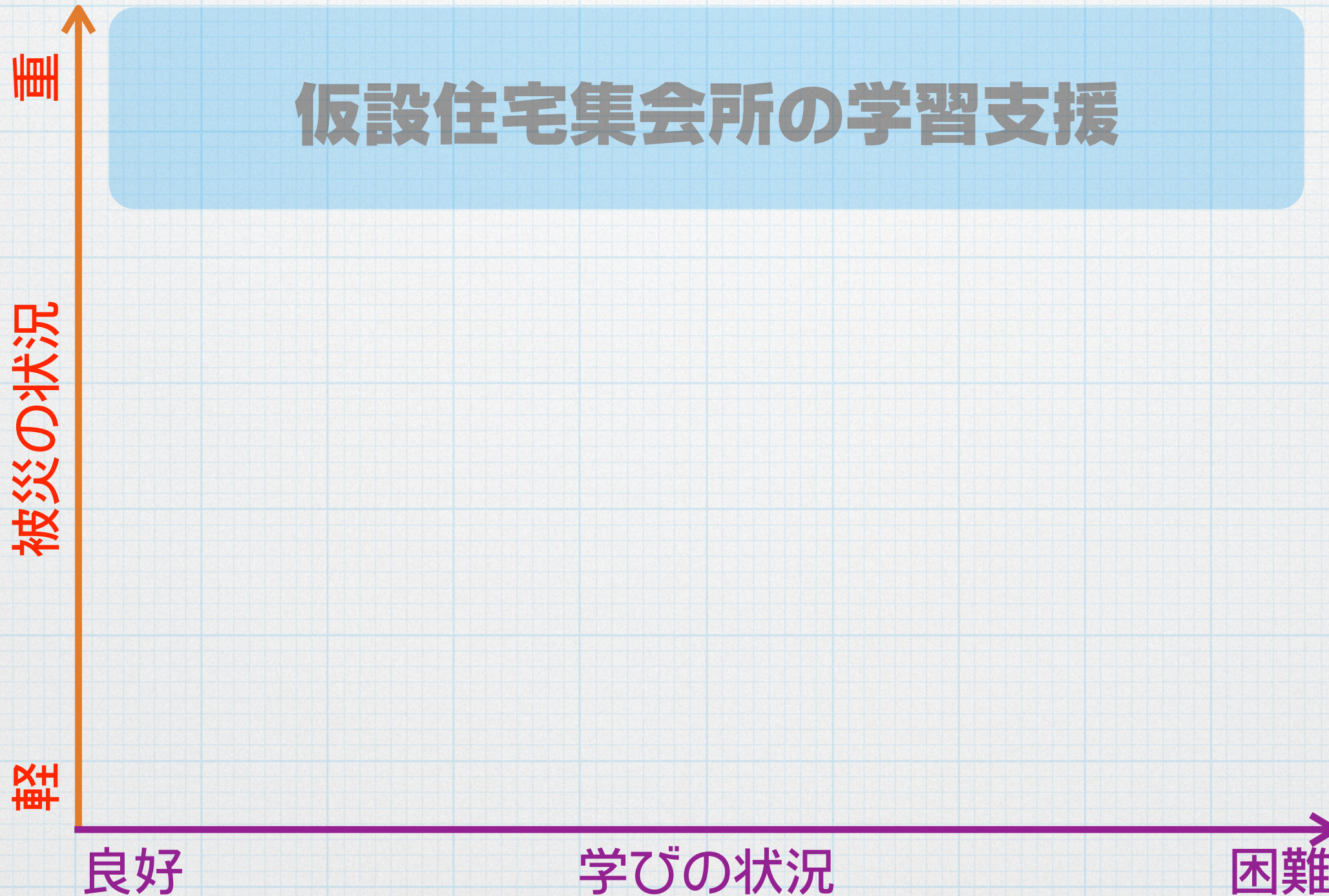
学校外 夜間＆休日



子どもたちみんなに届く支援とは

II

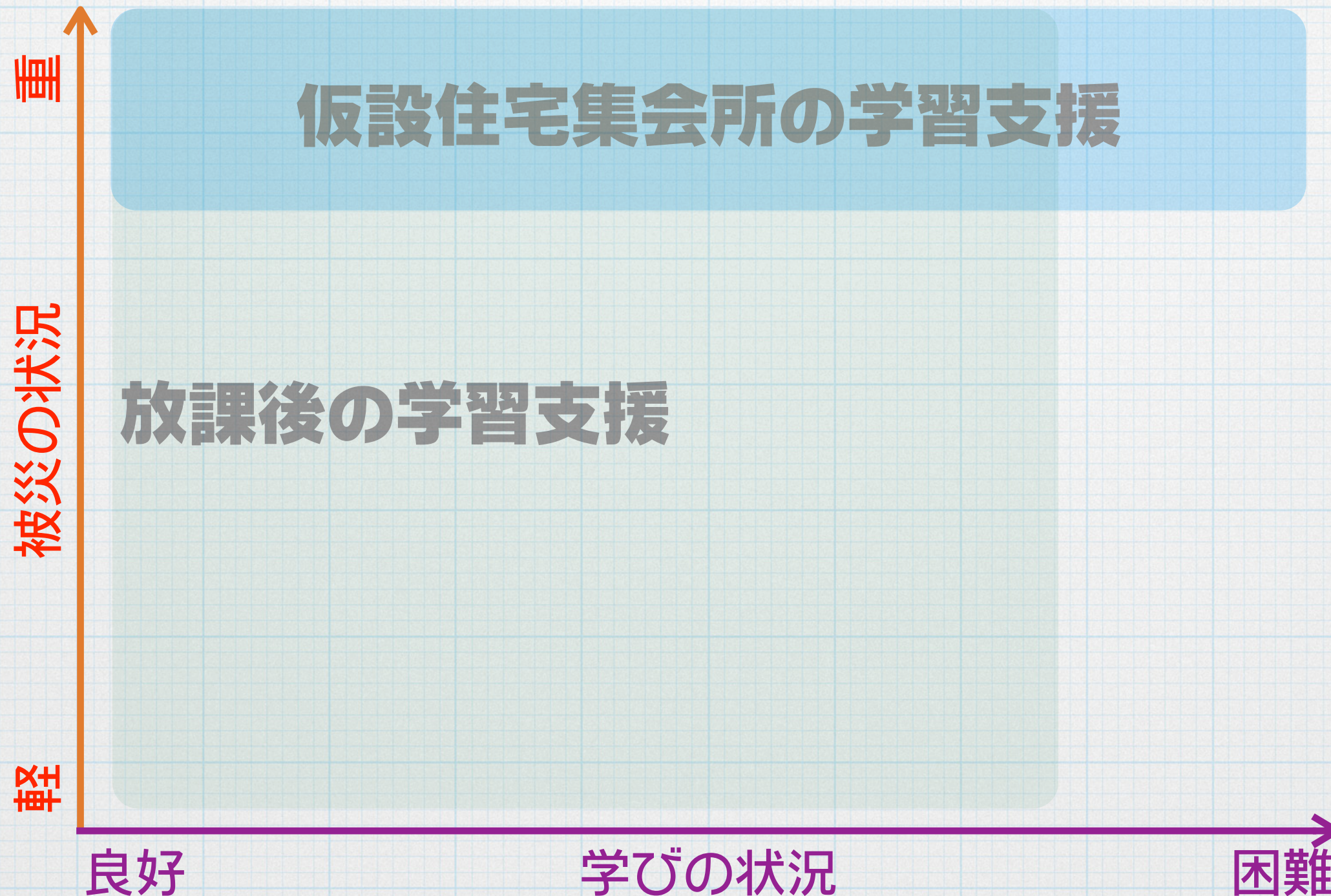
複数のレイヤーで地域全体をカバーする支援



子どもたちみんなに届く支援とは

II

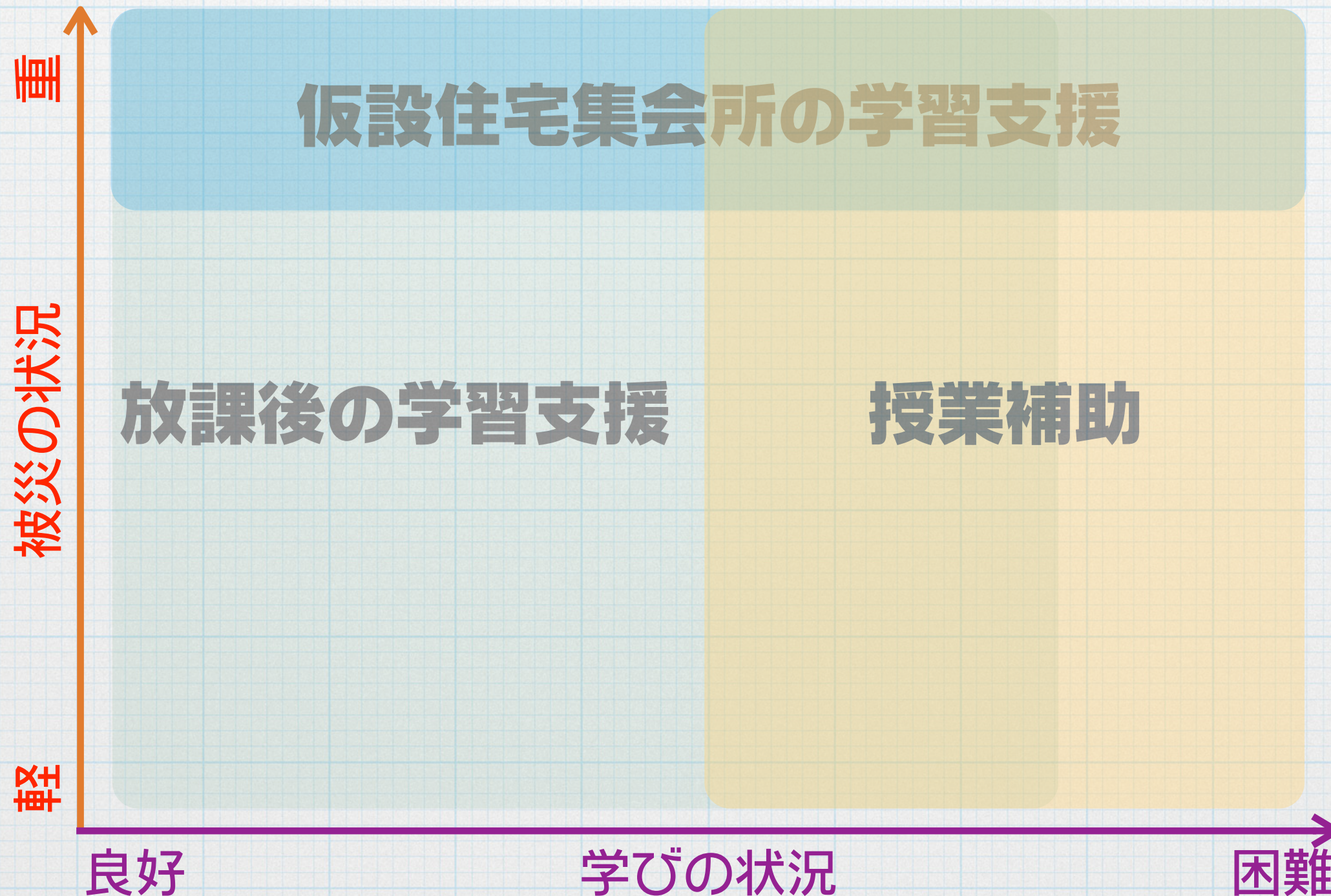
複数のレイヤーで地域全体をカバーする支援



子どもたちみんなに届く支援とは

II

複数のレイヤーで地域全体をカバーする支援



活動を通して感じる子どもたちの状況①

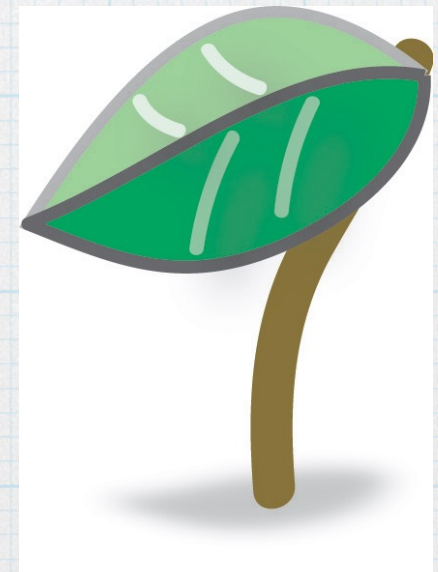
移動教室（仮設住宅の学習会）開始当初

- ・ 猛烈に元気（攻撃的な）小学生たち
- ・ 余震に敏感な反応を見せる
- ・ 普通に笑い、屈託無く話す中学生たち

運営上で気に掛けた事（結果的に）

- ・ 落ち着いて、安心して過ごせる場
- ・ 集中して勉強に向かう時間
- ・ 率直に話しができる関係づくり

中学生たちが震災時の経験を話し始めたのは、
震災から一年が過ぎたころ。



活動を通して感じる子どもたちの状況②

震災当時の学年と現在の学年

高校1年生 → 成人を迎える

中学3年生 → 高校卒業

中学2年生 → 高校3年生

中学1年生 → 高校2年生

小学6年生 → 高校1年生

小学5年生 → 中学3年生

小学4年生 → 中学2年生

小学3年生 → 中学1年生

**震災体験を対象化できた世代
(未来への強い意志)**

**「ため」を持たない世代
精神的な不安定さ
基礎学力のばらつき**

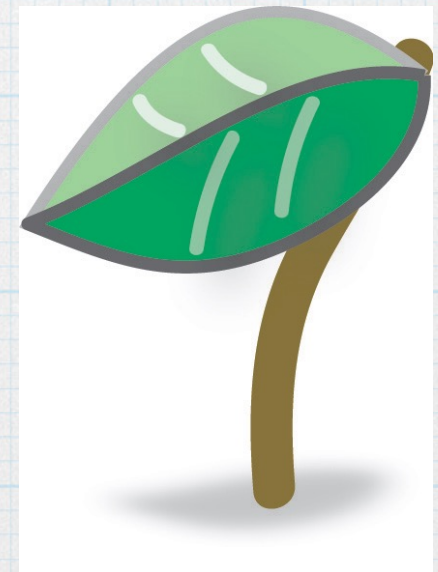
**震災体験を十分に言語ができ
なかった世代
恐怖や不安が未消化のまま**

活動を通して感じる子どもたちの状況③

今後数年間の心配事

小学校低学年で震災を体験した子どもたちが中学校に上がってくる。

様々な震災体験、恐怖・不安・寂しさなどの感情を、言語化して消化できないまま、心の奥底に抱えているかもしれない。被災直後に、もっとも手厚い支援を向ける対象を誤ったかもしれない。（反省）準備を怠ってはいけない。個別対応に即応できる体制を整えておきたい



活動を通して感じる子どもたちの状況④

局地的に急増＆固定化している不登校

不登校出現率の推移（生徒１００人あたりの発生人数）

	平成１７年度	平成２３年度	平成２４年度
県域	1.15	2.92	3.14
角田市	-	2.68	3.60
大河原町	-	2.18	4.19
塩釜市		4.83	6.80

全国１位

平成２５年度
3.17
平成２６年度
3.37

活動を通して感じる子どもたちの状況⑤

不登校の背景にあるものは何？

子どもたちの人間関係や対人スキルに原因を求める
のは短絡的

家庭の困窮、地域の困窮が表出した減少

不登校の長期化に伴うダメージ

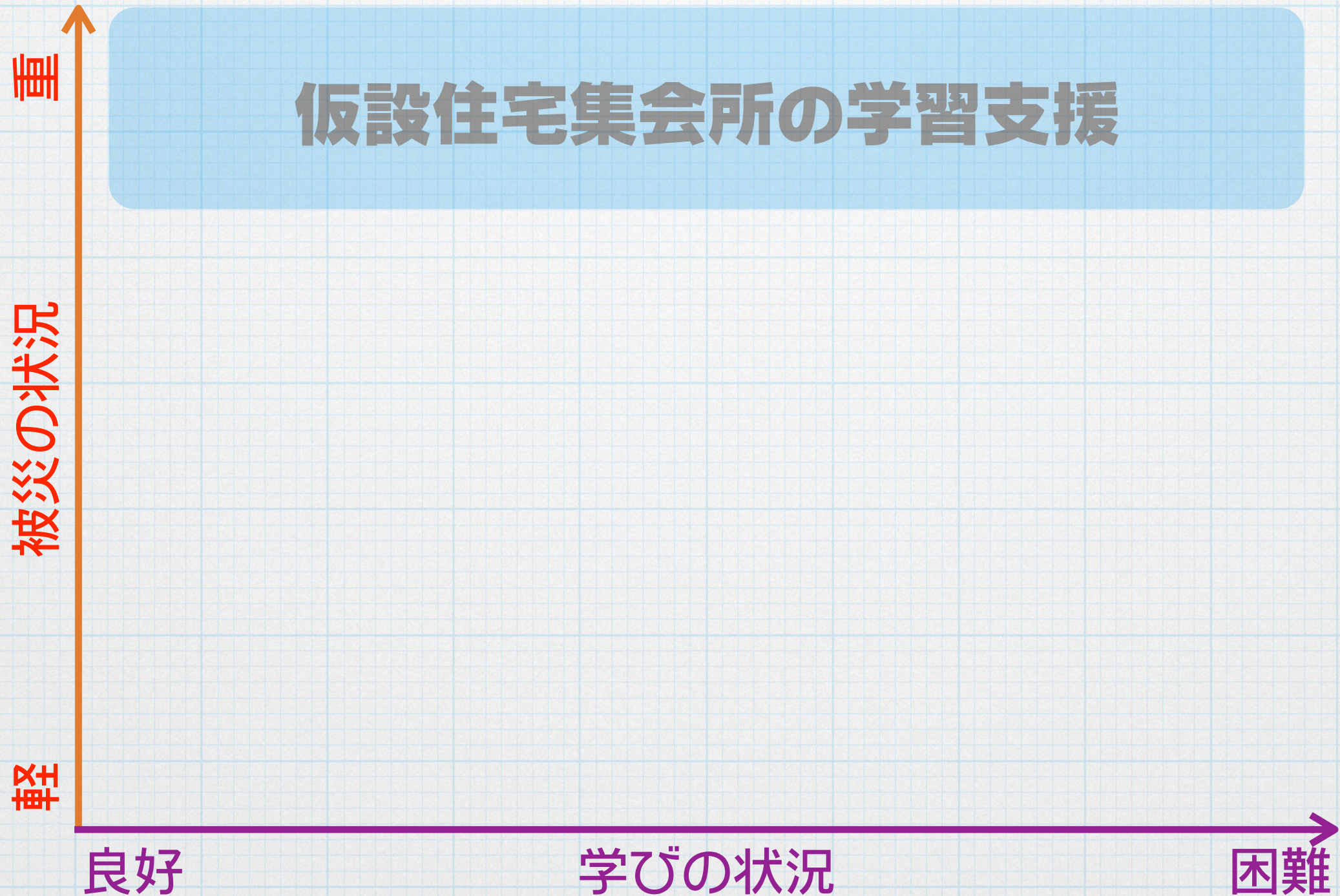
学習の遅れ、進路の不安定化、

社会参加に向けたハードルが上昇

山元まなびの森構想

II

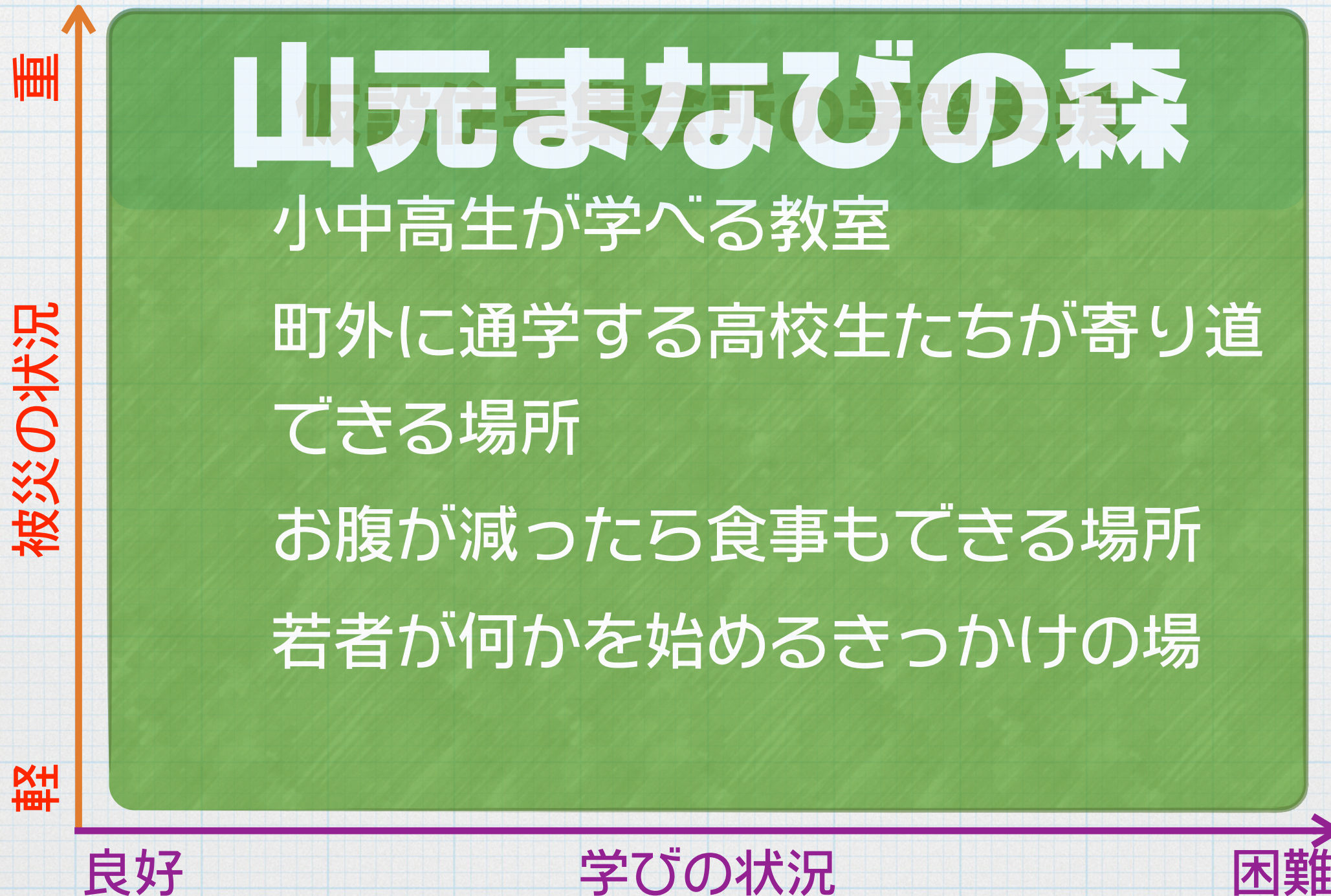
仮設住宅集会所に代わる拠点づくり



山元まなびの森構想

II

仮設住宅集会所に代わる拠点づくり



**でも自分たちには知恵も資金も不足しています
構想実現の支援をぜひお与えください
ご清聴ありがとうございました**

一般社団法人まなびの森



ポラリス勉強会

学びの森

「子どもたちの変化からたどる 震災からの日々」

参加者の感想

- ・改めて子どもの力（学力はもちろん）、人間力＝地域の力だと感じます。
学習支援を越えたコミュニティづくりが必要であり、そのためにも教育関係だけではない多様な大人（だけでなく多世代の人々）が協力していけばいいなと思います。
今日は大事な機会をいただき、ありがとうございました。

新地町 20 代男性

- ・いろんなべんきょうは、とってもきけない話をきけるなっ と、うれしかった。
わたしもまけないで、いろんなことをちょうせんしたいです。

ポラリスメンバー 50 代女性

- ・私は学習塾に通った事はありませんでした。
親の都合で無理矢理そろばんに通う程度。それもイヤイヤ・・・。
自分が親の立場になり、息子が幼少の頃から鉄道の仕事に関わりたいたいとのことでしたので、その夢のお手伝いをと思い、塾を中一のときから通わせました。
私にとって塾は勉強のためくらいしか考えてなかったけど、良い塾講師と出会い息子にとってその講師は人生の先輩と慕い勉強以外にも色々相談して現在もメールなど連絡など取り合っています。
まなびの森の取り組みも似たものを感じ共感しました。

亘理町 40 代女性

- ・自分は亘理町出身で育って、震災時期も小中高生ではなかったけど、自分が中高生だったときに学びの森さんみたいななんでも考えてくれる学習塾に通ってみたいと思った。
難しいかもしれないが、「学習すること」は楽しいというように感じる人が少しでも増えればよいと思った。

ポラリスメンバー 20 代女性

- ・「また戻ってきたい」と思えるような魅力ある地域にするための努力や、大人の都合ではない、本当に愛情をもって若い人を育てるという努力を、私たちは怠ってきたのかな、と。多くの気づきのある勉強会でした。

ポラリススタッフ 40 代女性

- ・人と人とのつながりと学習の協働キーワードはたくさんありました。大人が成長しないと子供は育たないことは知っているが、一歩ずつ実施していることの大切さを知りました。

東京都 50 代男性